

# 膨大なデータ 成果次々

## 岩木健康増進プロジェクト



### 弘前 10年間の研究を報告

2005年度から弘前市岩木地区で続いてきた岩木健康増進プロジェクトの14年度の結果報告会(弘前大学大学院医学研究科主催)が28日、同市のあそべーるで開かれ、各研究者がこの10年間の研究成果を振り返った。

(淡谷紘一)

今回のセッションで、座はプロジェクトのり、膨大なデータの裏は同大の研究者7人が現状を総括的に説明。報告を行った。高橋一平准教授(社会医学講)8000人の協力があることの重要性などを確認できたとした。

飯野香理助教(産科婦人科学講座)は「婦人科研究のこれまでの成果」を報告。母子手帳のデータを利用した調査により、周産期に心疾患などをした女性が、将来的にもそうした疾患のリスクが高いことを証明し、学会での発表に向けたまとめを行っていること述べ、「母子手帳を厚意で持ってきていただいていたありがたい。岩木でな

報告会であつぶる体操を行う出席者の

ければできない研究」と感謝した。

セッションの合間に、1月に民放キー局のテレビ番組で取り上げられ、反響が大きかったという「あつぶる

体操」を実践。名曲「リング追分」のメロディーに乗せてゆったりと上半身のストレッチを行った。

05年度当初から、先頭に立つて同プロジェクトを推進してきた同科の中路重之研究科長は、各研究の成果を青い」と述べた。

定的に評価しながらも「プロジェクトで山ほど得た利益をどうやって皆さんに伝えていくかが悩んだ。興味を持つてもらったための機会を積極的に持ちたい。岩木の皆さんのさらなる協力をお願いしたい」と述べた。